



手芸品作りで女性たちに笑顔と自信を

カタカタカタ…。軽快なミシンの音が、絶え間なく部屋中に響く。パラグアイ東部、シウダ・デル・エステ市の一角に立つ作業場で、地元の女性たちが縫製や伝統刺しゅうを学んでいる。

「経験がほとんどなく、初歩から習い始めた人も多いですよ」。そう話すのは、NPO法人フンダシオン マーノ・ア・マーノの山本美智子さん。「マチスモ(男性優位主義)」が根強く残る地域で、教育や就職の機会もなく、貧しさから抜け出せずにいる女性たち約300人に自立支援を行っている。

もともと、JICAの草の根技術協力事業を通じて2007年に始まったこの取り組み。協力が終わった今も、女性

たちの貴重な技術訓練の場として継続して運営されている。技術を磨いた参加者たちは、色とりどりの民族衣装やパラグアイ特有のバケット入れ「パネラ」なども作れるまでに。中には、「クモの巣」を意味する「ニャンドゥティ」と呼ばれる手編みのレース製品など、難度の高い作品に挑戦する者もいる。それらは町の市場で販売されているほか、最近は公務員の制服や、ホテル用のタオルに入れる刺しゅうなどの注文も入るようになった。

「彼女たちが技術や知識を身に付け、収入を得るようになり、男性の意識もだいぶ変わりました」と山本さん。家庭や地域の雰囲気も明るくなった。

笑顔と自信を取り戻した女性たち。今日も作業場から、そのにぎやかな笑い声が聞こえてくる。



ミシンの使い方を学ぶ参加者。訓練を終えて縫製関連の企業で職を得る者も

問：フンダシオン マーノ・ア・マーノ
TEL：03-5338-5588
URL：www.npofmano.or.jp

★女性たちが作る手芸品を3人の方にプレゼント!
詳細は38ページへ→

